

見つけた課題、まだ見えない未来

一宮中・1 伴 歌乃

バスケットボールとの出会いは、小学校二年生の時。友達に誘われて始めました。楽しくやっていたバスケットだけ、だんだんともっと強くなりたい、という気持ちが強くなり、四年生の三月に移籍をしました。六年生の時にはキャプテンとしてがむしやりに練習をしました。試合では思うような結果が出ず、最後の浜松カップでは、決勝戦で五フアールをとり、退場となりました。悔しかったし、とてもチームに申し訳なく感じました。その時、代表に、「上手になりたいなら修行に行け」

と言われ、あるチームを勧められました。友達は誰一人行こうとしなかったけど、「私一人でもやってやろう」と覚悟を決めて、今のチームへの入団を決意しました。

入団前の体験では、ミニバスの時とはルール、ゴールの高さ、ボールの大きさが違い、戸惑いました。また、体格の違いやスピードの違いというジュニアのプレイスタイルとの違いを体感して、今までの自分のスキルは通用しないと感じ、自信がなくなりました。

四月の入団式。初めて入団メンバーと顔を合わせました。三人は県一位のチームの子、もう一人は背が高い子、もう一人はライバルチームのエース。私はチームの中で一番背が低く、自分の武器探しから始めました。

ドリブルはすぐにボールを失い、シュートはリングにすら届かない。チームの動きを理解することができない。そんな中、同じ一年のメンバーの中でできる子との差が生まれ、焦りがどんどんふくらんでいきました。そんな気持ちを毎回バスケットノートに書いていました。ネガティブワードだらけの日々が続いていたらある時、バスケ

ートを提出するようにコーチから指示があり、初めて読んでみました。次の練習日にノートが返却されたので、中を見てみると、赤ペンでコメントが何箇所かに書かれていて、嬉しくなって読んでみました。過去一ネガティブなことを書いた日には、「ネガティブな考えはエヌジー。次は何を徹底するかが大事！」と書かれていました。そして、ページの最後に「見ました」ハンコが押され、「強気なディフェンス！ 強気なドライブ！ 自分の強みを理解しよう」と一言メッセージが書かれていました。私は武器探しをしていたので、自分の武器があること、そしてコーチが武器と認めてくれたことがとても嬉しく、少し自信ができました。とはいえ、武器をすぐに最大限生かすことは難しく、練習でチャレンジする前に、諦めてやれなかったり、苦手から逃げ、自分で自分の成長を妨げたりしていました。でも、諦めずに練習し、いいプレーをするとコーチが手をたたいてくれたり、「ナイスプレー」と言ってくれたり、チームメイトがハイタッチをしてくれたりして、モチベーションが上がり、「もう少しこうやったらよくなるかもしれない。」や、「共通理解で、これを徹底してやろう」など、チームメイトからのアドバイスをよく聞き、次のプレーの感覚だけではなく、頭を使い考えながら意識しました。

二泊三日の夏の合宿があり、親のいない環境で、自分のことが出来るか、チームメイトと仲良くできるかなど心配でした。合宿先では、電車に乗り遅れたり、洗濯の仕方が分からなかったりしました。二日目は疲労で声が出せずにチームに貢献できなかったり、プレーでも貢献できなかったりととても苦労しました。だからこそ、みんなが協力して乗り切りました。それにより、仲間同士の信頼や絆を深めることができました。難しいことだらけだったけど、体験したことのないことができていい経験になりました。また、そこで出会った大学生は、メンバーだけで生活していてすごいと思い、いい刺激になりました。

ある試合、一年生強化のため、二年生とは別の試合に出場することになりました。一年生だけでは初めてのことで、

「ちゃんとやれるかな」

「ドキドキ、ワクワクする」

と六人とも前日からいろいろな感情をもってそわそわしていました。当日、会場に集まった時、まず全員で時間を意識しようと言話をしました。その後、アップをしてコートに降りた時、コーチから、

「最初に何をしないといけないの」

と聞かれ、

「ディフェンス」

「声出し」

という意見を言った子もいました。コーチからは、

「今一番大切なことは、コーチに挨拶することじゃないの。」

と基本中の基本を忘れていることを指摘されてしまいました。普段、二・三年生に頼りすぎていたなど反省しました。指摘されてからは、みんなで声をかけ合って行動するようにしました。そうしたら、試合中も自然と声をかけ合い、話し合いながらいい雰囲気です合をすることができ、みんなで勝つことができました。六人しかいないので、七分×三クォーターを三試合。本当にきつかったけど、時々コーチが

「あと二分でタイムアウトとるからがんばっておいで」

と言ってくれて、乗り切ることができ、充実した一日を過ごすことができました。

「ディフェンスよかったよ」

とコーチからほめてもらったのが嬉しかった反面、やっぱり自分のスキルがない、シュートが入らない、パスミスが多いなど「課題」に気づくことができました。また、このままではAチームに入ることは難しい。試合に出ることも難しいと思います。

今はまだ、私の未来は何も見えていないけれど、目の前の課題に

しっかりと向き合い、今を全力で走り切りたいと強く感じました。